登山・登攀の記録

北アルプス　白馬～日本海

日時:1979 年 12 月 25 日～1980 年1月 11 日

メンバー:CL 山田稔、SL 山下昇、塔下守

概要:白馬岳から日本海に抜ける栂海新道の冬季スキー縦走。

佐野坂の山小屋から日本海までの冬季縦走を最終目標としつつ、そのルートの一部を先行して走破する計画であった。3名という小編成の負担を軽減するため秋に雪倉避難小屋に食料の一部をデポした。長栂から犬が岳は標高は低いものの湿雪が強風に吹き付けられフリルのような雪庇が張り出しており幻想的ですらあった。

記録

12 月 25 日　快晴

佐野坂小屋＝親の原ゲレンデ＝栂の森－早大小屋付近

どうせ早大小屋までや、とゆっくり出る。栂池スキー場の長いリフトを乗り継いで出てきたところにわりとまともなゲレンデ。一回だけ滑ることにした。

12 月 26 日　快晴

早大小屋付近 T.S－天狗原

大快晴。こんな日に稜線にいたら･･･と考えても仕方ない。只々、汗で天狗原。ほんま冬か！

12 月 27 日　晴

天狗原 T.S－三国境手前

いきなりの乗鞍の登りは怖かった。ジルブレッタに恨みがつのる。乗鞍の下りでアイゼンに履き替えてスキーを担ぐ。重たいがかわいいスキーの為だ。風に煽られないのが幸い。ところが小蓮華を過ぎた頃から靴の調子が極度に悪化。ひたすら前へ。三国境の手前でサイト。ここまで実にあっけない。ほんまに冬やろか、と又思う。

12 月 28 日　ガス

沈殿

薄いガス。風も弱い。私は早々、白馬アタックを済ませておきたかったが何故か沈殿。「行こうや」の一言が私自身、遂に言い出せなかった。

12 月 29 日　雪

沈殿

昨夜より天気は悪化。当然沈殿。長い一日を過ごして 19 時就寝。端に寝ていた私は寝返りが打てないのに気付いて目が覚めた。テントが私の体を押さえつけている。埋められた！慌てて皆を叩き起こしてラッセルに出る。時に 21 時半、外は無風で雪の土砂降りだ。ザーザーと降ってくる。寝起きの重労働は体に応える。こんな場面で私が真っ先に飛び出したのはどう考えても腑に落ちない。いつもの私なら最後までウダウダ言うはずなのに。きっと寝ぼけていたんだろう。夜明けまでさらにラッセル 2 回。

小蓮華ピーク

12 月 30 日　ガス

テントの周りは雪の壁。今日もホワイトアウト。28 日が悔やまれるが、今更しゃあないといい聞かす。

12月31日　ガス

沈殿

ホワイトアウト。風も強い。入山以来初めての大キジ。完全な雪洞を掘り、入り口にブロックまで積んで個室でゆっくりする。終わった後、他人に使われぬよう埋め戻す。ざまあ見ろ！今日のおやつは餃子。塔下が真っ白になって粉を練っていた。味？うまいに決まっているやないか！

1月1日　ガスもしくは雪

三国境手前 T.Sコ白馬岳

晴、そそくさと出発。あっと言う間に頂上に着いた。頂上でのお屠蘇の美味かったこと!タバコの美味かったこと。帰幕すると風が強くなって行動中止。お節料理に昆布巻きを作る。

1 月 2 日　曇のち雪のち快晴

三国境手前 T.S－鉢ヶ岳手前のコル

ガス。風もまあまあ。秋の偵察時に立てた赤旗を確認しながら三国境を無事下りきる。スキーを付けたザックが風に煽られてえげつない片重である。しんどいこと、しんどいこと風はどんどん強くなり、ほっぺたが何回も凍る。鉢に取付くが雪庇が出てきて駄目。取付まで引返して雪洞を掘る。夜に入って星がきれいに出た。

1 月 3 日　晴

鉢ヶ岳手前のコル T.S－雪倉避難小屋

晴れた。昨日の雪庇(見てみると小さいなぁ)は左の弱いところから乗越す。風は弱くはないが常風なので助かる。雪倉避難小屋に潜り込みデポの回収。このまま行こうかという話も昨日はあったがここまで来ると泊まらずにおれない。誘惑に弱いなぁ。

1 月 4 日　ガス

沈澱。

風吹け、雪降れとお祈りする。祈りの方は天気には通じなかったが、山田氏には通じたらしい。

1 月 5 日　雪のち曇

雪倉避難小屋－赤男山手前のコル

雪倉から赤男とのコルに出る懸念のルートを通る今日、天気はガス気味だが時々ガスが消えるのを頼りに出発。雪倉自体はあっさり越え、塔下の目とルートファインディングに頼ってまずは夏道どおり。だが、当然のように夏道はすぐ消える。トラバースを続けるが斜面が急で雪崩が怖い。ガスでルートも判らないからとりあえず下に向かって駆け降りることにして本当に、走って走って、下へ下へ。塔下に先頭の交代を頼むと「ルートがわからん。」と拒否される。「俺もわからんわい！ともかく斜め下や。」と怒鳴って交代。「こんなとこ行きたない。」とか、このピッチ塔下のごてること、ごてること。ともかく長居は無用なんやと、しんどいのも手伝って腹の虫が暴れまわった。ようやく赤男とのコルの北方に取付いた時にはホッとしたよ。ガスの中、大成功！と。今夜はいい酒を飲むことにしてコルにて泊。本当にホッとした。

1月 6 日　快晴

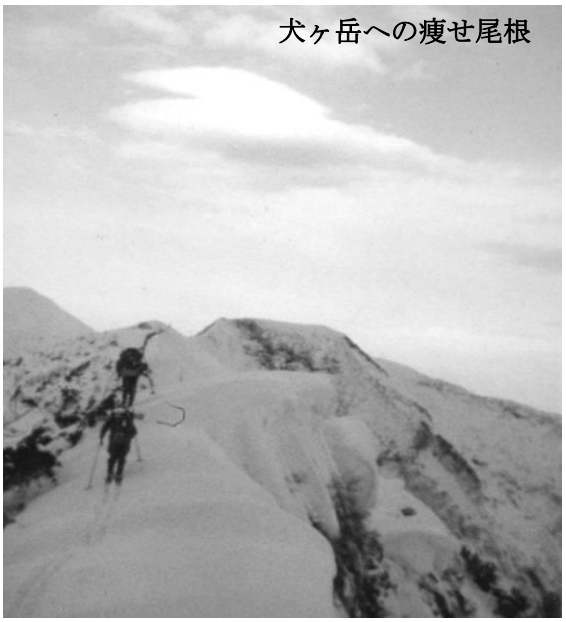
赤男山手前のコル T.S－長栂山

大快晴。久々にシールを利かせて汗をかきながら前進。実に気持ちよく、今合宿最良の一日。朝日岳の登りはバテバテになってしまった。長栂へは塔下はスキーを脱いで、私はシールのまま、山田氏はシールを外して。着順は書いたとおり。長栂のサイト地は抜群だ！

1月7日　曇

長栂山 T.S－犬ヶ岳手前

長栂からアヤメ平へもシール着けっぱなしで滑り降りて快適に黒岩へ向かう。泊予定地で昼飯。ここで股関節がおかしくなり左足が上がらず皆の足をひっぱりながら犬ヶ岳へ向かう。犬の2つ手前のピーク辺りは稜線が氷化していて下をスキーで回りこむこととする。このあとゴチャゴチャがあるが私は先に行っていてはっきり見えなかったので記述は塔下(後述)に任せる。その間私は安全地帯の中でジッとしていた。風が氷の細かい欠片を吹上げて顔にビシビシ当たる。ようやくのこと稜線に出て次のピークに登った時は真っ暗。塔下が一旦立ち止まり山田氏の顔を見てから動作鈍く進もうとする。山田氏考え込む。「ビバークするか」と私。「よっ



犬ヶ岳への痩せ尾根

しゃ、ビバーク。」山田氏の声に私と塔下は小躍り。氏も何かしらはしゃいだ声。雪を掘って3人座るだけがやっとのテラスを作り、ツエルトを被る。さして寒くもなく、カレーを腹に詰め込んで眠ろうと一晩がんばると朝が来た。

〔補足：塔下〕犬ヶ岳の「台形」はすぐそこや、と痩せ尾根を行く。右側は500mほど切れ落ちている。雪庇だけは踏抜かんようにとスキーを出す。その時、－(ピシッ)－「あっ！」－(ドン)－「ムムッ」－(ザザーッ)－「はぁ、はぁ」－『塔下、大丈夫か！』－雪庇の割れる音がするや否やトップの塔下は左側へ飛びヒバの枝に飛付いたのであった。雪庇の向うには透きとおった月があった。

1月8日　快晴

犬ヶ岳手前 T.S－さわがに山荘

今日も大快晴。ビバーク地を出て先に進む。と、やらしい痩尾根。昨日行かんで良かった。さわがに荘に潜り込むともう動く気がせずに昼寝。小屋にあった米をたらふく食った。久しぶりの堅い飯。

1月9日　晴

さわがに山荘－・1241

小屋の下の斜面はクラスト気味の上、下の木の穴を踏抜いて苦労する。1ピッチ行った所で私が雪庇の根元を踏抜いて丁度背丈の深さの穴を開ける。上から荷物を取ってもらいチムニー登り。一瞬ヒヤッとした。塔下はスキー、股関節痛の為足の上がらぬ私と靴ヅレの山田氏はワッパ。ブッシュの中を右に左にすり抜けながら菊石山の次のピークで時間切れ。

1月 10 日　晴

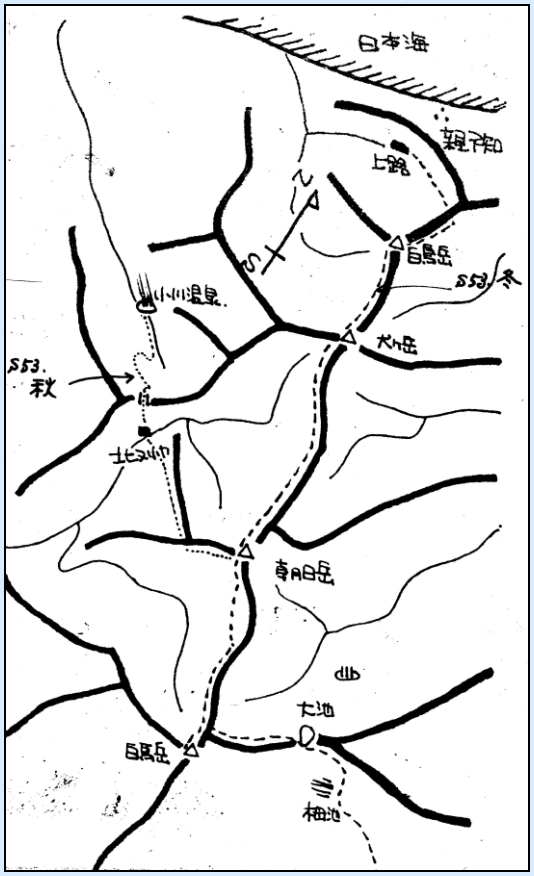
・1241T.S－金時坂手前

ブッシュの弱みを縫いながら白鳥山へ。白鳥ピークで眼前に広がる日本海に合宿終了を感じる。振りかえった山が懐かしい。30 分ほど滑ってブッシュへ突っ込む。弱点のないブッシュの中を枝をかき分け、かき分け、遅々として進まない。坂田峠の手前でようやくテントの張れる空間を見つけ泊。ここまではそれもなかった。

1 月 11 日　曇時々雪

金時坂手前 T.S－上路＝市振

朝から雪。昨日の続きを 4 時間ほどやって夏道を見つける。ワッパをつけて20分で坂田峠。ここから栂海新道を放棄して上路へ降りることにする。私は新道の通りのほうが楽やと思ったんやが・・・。案の定今度はツタの大活躍。にっちもさっちも行かなくなり沢芯に降りることに。スキーを持って沢の中をジャブジャブ。「冬にすることとちゃうで。」ごてる私に「上に行ってたら下の方が楽やと思ってるで。」と山田氏が慰める。とにかくいかなしゃあないと思っていたし、一生懸命二人についていった私も口だけは押さえきれずウダウダ言い続けるうちに堰堤が出てきた。その先は林道、スキーをつけて滑り降りる。上路の郵便局前まで強引に滑り、白タクを雇って市振へ。なんとなくあっさり日本海の白波を眼前に仰ぐ。富山に向かう電車の中でやっとこさ終わったと云う感じが掴めた。終わってしまったんやなぁと何度も思った。　　（記／山下）



白馬岳以北概念図(作図／塔下)